

記事

Toshihiko Minamoto · 2020年12月23日 3m read

動的SQLの新旧対照表

新しい動的 SQL クラス (%SQL.Statement および %StatementResult) のパフォーマンスは %ResultSet より優れてはいますが、%ResultSet の使用方法をせっかく学習したので、しばらくの間新しい方を使用せずにいましたが、やっとチートシートを作ったので、新しいコードを書いたり古いコードを書き直す際に役立てています。皆さんのお役に立てればいいなと思っています。

次に示すのは、私のチートシートの詳細版です。

1	%ResultSet::%New()	%SQL.Statement::%New()
2	Prepare() インスタンスメソッドを呼び出す	%Prepare() インスタンスメソッドを呼び出す
3	前のステップがステータスを返すので、それを確認	前のステップがステータスを返すので、それを確認
4	Execute() インスタンスメソッドを呼び出す	%Execute() インスタンスメソッドを呼び出す
5	前のステップがステータスを返すので、それを確認	前のステップが %SQL.StatementResult のインスタンスを返すので、次のステップでそれを使用
6	Next() インスタンスメソッドを呼び出す (while ループでイテレートなど)	%Next() インスタンスメソッドを呼び出す (while ループでイテレートなど)
7	GetData() インスタンスメソッドを呼び出して、列番号で列を取得	%GetData() インスタンスメソッドを呼び出して、列番号で列を取得
	Get() または Data() インスタンスメソッドを呼び出して、列番号で列を取得	%Get() インスタンスメソッドを呼び出して、列番号で列を取得

そして、これが私が実際に使用している簡易版チートシートです。

1	%ResultSet::%New()	%SQL.Statement::%New()
2	Prepare()	%Prepare()
3	ステータスを確認	ステータスを確認
4	Execute()	%Execute()
5	ステータスを確認	%Execute の戻り値を次のステップに使用

動的SQLの新旧対照表

Published on InterSystems Developer Community (<https://community.intersystems.com>)

6	Next()	%Next()
7	GetData()	%GetData()
	Get() または Data()	%Get()

[#Code Snippet](#) [#SQL](#) [#ベストプラクティス](#) [#Cache](#)

ソースURL:

<https://jp.community.intersystems.com/post/%E5%8B%95%E7%9A%84sql%E3%81%AE%E6%96%B0%E6%97%A7%E5%AF%BE%E7%85%A7%E8%A1%A8>